

【概要】

8. その他の無脊椎動物

節足動物と陸産・淡水産貝類以外の無脊椎動物については、県内に専門家が不在のため、前回は、県外の専門家の協力が得られた淡水産プラナリア（扁形動物）と淡水産カイメン類（海綿動物）のみを選定対象としていた。

いっぽう、今回の選定では、選定対象範囲に海岸に近接する渚や干潟に生息する海産動物も加えていたが、その中で最近、鳥取県沿岸から生息が確認されたナメクジウオ（正確にはヒガシナメクジウオ）が候補として浮上した。ナメクジウオは脊索動物門頭索動物亜門に属する海産の動物で、現在一般的に用いられている分類体系では脊椎動物と同じ脊索動物門に属するが、「無脊椎」動物であることにはかわりはないので、ここで扱う。

淡水産プラナリアは現在のところ県内からは2種（ナミウズムシとミヤマウズムシ）が知られるのみだが、うちミヤマウズムシ1種が「準絶滅危惧」（前回と同じ）として選定された。

淡水産カイメンは7種が確認されているが、うち2種をリスト掲載種として選定した。ただし、ランクはヌマカイメンが「情報不足」、シロカイメンは「その他の重要種」に変更となった（前回は両種とも「準絶滅危惧」）。

ナメクジウオ類は日本に4種が記録されているが、鳥取県沿岸で生息が確認されているのは、ヒガシナメクジウオ1種のみである。瀬戸内海などでは海底の砂利採取などによる生息地の減少が問題になっており、鳥取県でも要注意であるが、最近生息が確認されたばかりで生息状況についてはさらに確認を要するため「情報不足」での掲載となった。

（鶴崎展巨）

ヒガシナメクジウオ ナメクジウオ目 ナメクジウオ科

Branchiostoma japonicum (Willey, 1897)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



撮影：野田泰一

■**選定理由**：本種はかつて有明海や瀬戸内海でかなり生息していたといわれるが、近年は個体数と生息地が激減している。愛知県蒲郡市大島と広島県三原市有竜島は、本種の生息地として国の天然記念物に指定されている。日本海側での採集事例はわずかである。

■**特徴**：体は細長く、魚類に似ていて体の背、腹、尾縁に膜鱗状の構造を備え、体軸には脊索が縦走し、その背側に神経管が走る。その形態から脊椎動物の祖先に似ていると考えられている。砂質の海底付近で、しばしば基質に潜入し、生息している。昼間は静止し、夜間に活動する。

■**分布** 県内：鳥取砂丘沖の水深約25 mの海域において、2003年5月13日に鳥取県栽培漁業センターが実施した採泥調査で採集された。鳥取県内における他の採集報告の事例はない。県外：本州南部の浅海域に分布。

■**保護上の留意点**：砂質の海底の維持が重要。山陰沖での生息状況についてはさらに調査が必要である。

■**文献**：1, 6, 9.

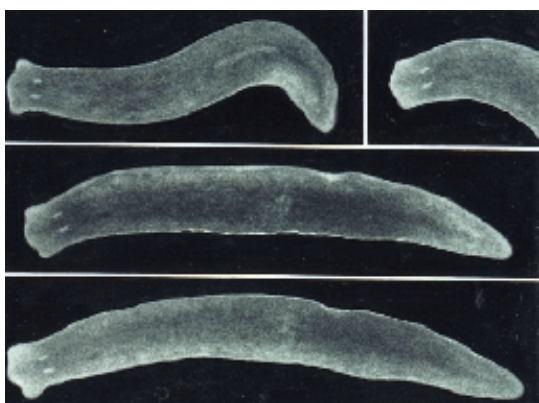
執筆：太田太郎

ミヤマウズムシ “ウズムシ類” (三岐腸目) ヒラタウズムシ科

Phagocata vivida (Ijima & Kaburaki, 1916)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



撮影：川勝正治

■**選定理由**：冷水域にすむ狭適温性種で、県内では河川の上流～源流域だけに生息。

■**特徴**：体長20 mm以下で細長い。体の背面は灰色～灰黒色、頭部左右にとがった触角があり、2眼をもつ。

■**分布** 県内：生物学的水質階級の貧腐水性域の指標種の一つで、県内では河川の上流～源流域（標高500–1500 m）に生息。確実な記録は氷ノ山、那岐山、大山阿弥陀川の上～源流部（標高520 m以上）、行者谷、榎水原の冷小流や湧泉、船通山（日野川源流部）。低地でも、冷泉に出現する可能性はある。県外：北海道（大雪山以南）、本州（隠岐島後大満寺山と佐渡島金北山を含む）、四国、九州；朝鮮半島（鬱陵島を含む）、ロシア沿海州、中国東北部。

■**保護上の留意点**：源流部の開発や水質汚染に注意が必要。

■**文献**：2, 3, 4, 10, 11.

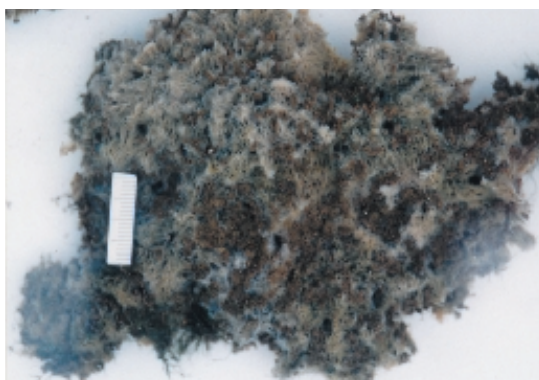
執筆：川勝正治

シロカイメン ザラカイメン目タンスイカイメン科

Spongilla alba Carter, 1849

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



東伯郡東郷池 2001.7.17/撮影：益田芳樹

■**選定理由**：汽水性の種で、県内からは東郷池のみから知られる。全国的にも国内では他に島根県宍道湖と茨城県涸沼から知られるのみである。

■**特徴**：基質を盤状に覆うように付着するが、表面には多くの不規則な形の短い突起をもつ。汽水域にのみ生息する。冬期は芽球で越冬する。

■**分布** 県内：東伯郡湯梨浜町東郷池。県外：宍道湖（島根県）、涸沼（茨城県）；西南アジア、アフリカ、オーストラリア、アメリカ合衆国、南アメリカ。

■**保護上の留意点**：塩分濃度の大きな変更を生じさせないこと。

■**文献**：5, 8.

執筆：益田芳樹

ヌマカイメン ザラカイメン目タンスイカイメン科
Spongilla lacustris (Linnaeus, 1758)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



東伯郡西岡谷池 2001.6.20/撮影：益田芳樹

■**選定理由**：北方種で近畿以北では普通にみられるが、中国地方では鳥取県の1カ所のため池で見ついているのみである。

■**特徴**：基質を盤状に覆うように付着するが、表面にはいくつかの指状の突起をもつ。体は体内に緑藻の共生藻をもつために緑色をしている。

■**分布** 県内：東伯郡琴浦町西岡谷池。県外：西南日本では香川県に2カ所と大分県に1カ所；世界では寒温帯地方。

■**保護上の留意点**：生息域の周囲を含め大きな環境変化をしないこと。水を干す場合には冬期に実施するとともに芽球を採取し避難させること。

■**文献**：7, 8.

執筆：益田芳樹

■**参考文献** その他の無脊椎動物

1. 岩井 保・林 勇夫 (1990) 原索動物. pp. 184–191. In: 基礎水産動物学. 恒星社厚生閣 (東京都) 266 pp.
2. 川勝正治 (1955) 淡水産プラナリアの垂直分布に関する資料, I. 大山地方. 京都学芸大学学報, B, 7: 45–51.
3. 川勝正治・大河原玄沖 (1969) 中国山脈の淡水産プラナリアの生態調査報告, 陸水雑, 30: 151–164.
4. Kawakatsu, M., Timoshkin, O. A., Porfirjeva, N. A. & Takai, M. (1995) Geographical distribution of *Phagocata vivida* in the Far East. *Hydrobiologia*, 305: 63–70.
5. 益田芳樹 (1990) 宍道湖及びその周辺の淡水海綿について. 川崎医学会誌一般教養篇, 16: 67–82.
6. 太田太郎 (2004) 海底耕うん調査事業. pp. 65–69. 鳥取県栽培漁業センター年報.
7. 佐々木信男 (1969) 四国・九州産の淡水海綿について. 水産大学校研究業績, 568: 65–82.
8. 佐々木信男 (1972) 本州中部 (関東, 中部, 近畿各地方) 産の淡水海綿について. 水産大学校研究業績, 690: 31–47.
9. 佐藤正典 (2010) 上関のナメクジウオ. pp. 57–61. In: 日本生態学会上関要望書アフターケア委員会 (編) 奇跡の海. 瀬戸内海・上関の生物多様性. 南方新社 (鹿児島市) 237 pp.
10. Sluys, R., Kawakatsu, M. & Timoshkin, O. A., (2001) Taxonomic redescription of *Phagocata sibirica* and comparison with *Phagocata vivida* (Tricladida, Paludicola). *Belg. J. Zool. (Suppl. 1)*: 193–199.
11. Sluya, R., Smolders, I., Kawakatsu, M. & Kuranishi, R. B., (2009) Freshwater planarians (Platyhelminthes: Tricladida: Planariidae) from the Kuril Islands and Kamchatka. *Species Diversity*, 14 (4): 307–322.